

## ■温室効果ガス削減の目標

削減目標（政府目標値）	
2030年度	2013年度比 46% (2,119トン) 以上
2050年度	カーボンニュートラル

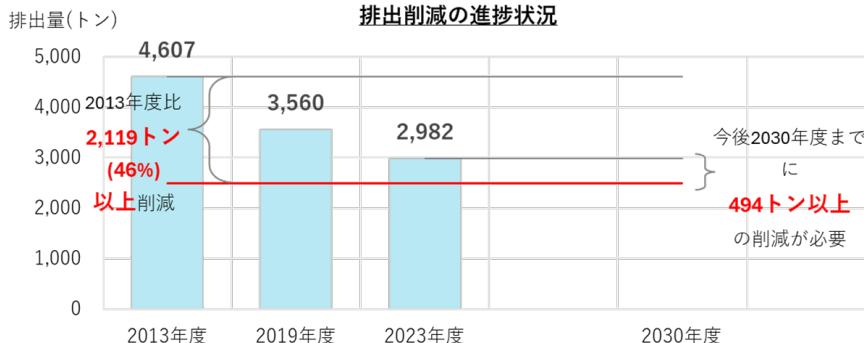
## ■温室効果ガス排出量の推移

松山空港の2023年度の温室効果ガス排出量は、2019年度比578トン減少の2,982トンである。

2030年度の削減目標（2013年度比46%以上の削減）の達成には、今後494トンの削減が必要である。

	温室効果ガス排出量(トン)		
	2013年度	2019年度	2023年度
空港施設	4,169	3,190	2,603
空港車両	438	369	379
計	4,607	3,560	2,982

※小数点以下の端数処理により合計値が整合しないことがある



主に契約されている電力会社の排出係数・・・2013年度：0.656、2019年度：0.528、2023年度：0.454

## ■2019年度～2023年度の温室効果ガス排出量の増減背景

松山空港では、貨物ビルが新築され国際線施設が増改築されるなど空港施設が拡大しているが、コロナ禍前(2019年度)と比べ2023年度の旅客数は95%程度に留まっており、主に契約されている電力会社の排出係数も低下している。さらに脱炭素化施策の取組が行われていることを背景に、温室効果ガス排出量は2019年度に比べて減少した。

## ■脱炭素化施策の取組状況

空港施設に係る取組	➤ 建築施設照明のLED化、建築施設の熱負荷低減、空調・換気の省エネルギー運用の取組が行われた。 ➤ 航空灯火のLED化の取組が行われた。
空港車両に係る取組	➤ 電動車への更新が行われた。
再エネ導入促進に係る取組	(当該期間に新たに実施した取組に関する情報なし)
その他の取組	➤ トーリングトラクターで高純度バイオディーゼル燃料「B100燃料」の実証実験が行われた。